

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年4月28日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891700049		
法人名	株式会社 メディカルアシスト		
事業所名	グループホーム たんぽぽ	ユニット名	Aユニット
所在地	〒300-1525 茨城県取手市桜が丘1-17-13		
自己評価作成日	平成25年9月16日	評価結果 市町村受理日	平成 26年4月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=tr ue&JigyosyoCd=0891700049-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年11月20日	評価機関 決裁日	平成26年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>当事業所は、地域との交流を大切にしている。小学生や中学生、高校生などが来訪し、認知症の方々と交流をしたり、実際の業務を体験することで認知症を理解してもらえる様にしている。その他、地域行事へも積極的に参加することで、地域住民の一人であることを知っていただけるようにしている。また、桜が丘団地内にはいくつものボランティアグループやサークルなどがあるため、年に数回ホームへ来訪してして頂いている。季節によっては、地域の老人会の皆様と合同でクリスマス会を企画、開催するなどして交流を図り、互いが楽しく過ごせる時間を設けている。家族交流会も開催して、家族と利用者様が共に楽しく過ごせる時間も持てるようにしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は玄関正面側には住宅街、後ろ側には田園が広がる自然豊かな場所に立置しており、日々の暮らしや散歩を通して四季の移り変わりが感じられる環境となっている。 管理者は職員と日頃から何でも話せる関係を築くなど、風通しの良い働きやすい職場の環境づくりに努めている。 代表者の考えに基づき、食事は近隣にある同一法人の通所介護事業所で作り、職員が調理をしない分利用者の支援に専念ができるようにしている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に職員全体で基本理念を読み上げ、意識付をしている。また、ユニット毎の理念を作成している。ホールへ掲示し、実践に努めている。	管理者は職員と話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念をユニット毎に作成し、玄関や居間兼食堂に掲示している。職員は理念に基づいたケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入し、除草作業や夏祭りなど自治会で開催されている催しへは出来る限り参加している。毎年、ホームを開放し、地域の高齢者と合同でのイベントを開催している。	自治会に加入しているほか、地域の老人会と合同でクリスマス会を開催し、利用者が地域の人々と交流ができるよう支援している。小学校や中学校、高校の授業の一環である職場体験学習や社会科福祉体験などを受け入れているほか、手話ダンスなどの地域のボランティアを受け入れている。地域で行われる盆踊りに参加したり、子ども神輿やどんど焼きを地域の一員として見物したりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学校へ出向き認知症についての講義を行ったり、実際にホームへと来所して頂き、利用者様と触れ合いの時間をもち、理解して頂けるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者様の生活状況を報告し、委員の皆様には実際の避難訓練へ参加して頂いたりして改善点などを伺い、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は家族等の代表や地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、ボランティア、センター長、管理者で2ヶ月に1回開催している。前回の外部評価で、全ての運営推進会議に市職員又は地域包括支援センター職員の参加が得られるよう開催日を話し合うことが提案され、それまで平日と休日交互に開催していたのを平日の開催に変更したが、改善されるまでには至っていない。会議では事業所の活動報告をしたり、利用状況や行事予定を報告したりしているほか、委員と意見交換を行い、出た意見等を職員会議で検討してサービスの質の向上に活かしている。会議で小貝川や利根川の氾濫を想定した避難訓練の実施が提案されたほか、避難指定場所である小学校が遠いため、水害時の避難に困難が予測されることから、避難場所を見直すことが議題にあがっており、避難指定場所については後日職員会議で話し合い、事業所から近い中学校を避難指定場所に変えてもらうよう市に依頼している。	福祉サービス向上のため、全ての運営推進会議に参加することが望まれる市職員もしくは地域包括支援センター職員に、会議に参加してもらうにはどうしたらいいか、市と十分に話し合うことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者様の状況の変化などを地域包括支援センターなどへ相談し、連絡を取り合いながら解決策を検討したりしている。また、地域包括支援センターの職員と共に認知症サポーター養成講座を開催し、地域の方々へ認知症についての理解を深めていただくための努力をしている。	管理者は市担当課へ積極的に足を運んだり、運営推進会議で市担当者に事故や入退所状況を報告したり、生活保護を受給している利用者や、支払が困難な利用者について相談したりして、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当事業所は、目の前が公道で車の通りが激しく危険であるため、家族へ事情を説明し、利用者の安全のため施錠をしていますが、希望時にはいつでも開錠している。また、定期的なカンファレンスを開催して、身体拘束についての理解を深めている。	安全対策として玄関を施錠したり、ベッド柵を使用したりすることを契約時に利用者や家族等に説明し、同意を得ている。 朝礼や夕礼時に身体拘束解除に向けて話し合っているが、記録に残すまでには至っていない。 管理者は職員を対象に身体拘束をしないケアについての内部研修を行っている。	身体拘束解除に向けて話し合った内容を記録に残すことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部研修を開催し、虐待についての知識を深め、常に注意を払い虐待や身体拘束防止に努める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政担当者から情報を頂き、必要である方は、関係機関と話し合いのうえで活用できるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、パンフレット、重要事項説明書を用いてわかりやすく説明をし、理解と納得を頂いて契約をしている。不安な点や質問などはいつでも受け付けている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、契約時に説明をし、面会時には日々の様子を伝えるようにしている。また、家族交流会時にも意見を伺い、運営に反映している。	利用者からは日常の問いかけや会話の中から、家族等からは来訪時や運営推進会議、行事の時などに意見や要望を聴くように努めているほか、無記名の家族アンケートを実施している。 家族等から「定期的に布団を干して欲しい」との意見を受け、職員で話し合って「布団干し表」を作成するなど、運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にカンファレンスを開催し、意見や提案が出来るようにしている。また、日々の申し送り時などでも職員の意見を聞き、運営やケアに反映できるように努めている。	管理者は月1回のカンファレンス時に職員の意見や提案を聞いているほか、日頃から職員に話しかけてコミュニケーションを図り、職員が意見や提案を出し易い雰囲気づくりに努めている。 職員から出た意見を受け、喫煙のための休憩の取り方について、現在検討しているところである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者を交えての意見交換を定期的に実施し、年に何度かは自己評価をして、日々の業務に対する姿勢を見つめ直す機会を設けている。また、職員から出た提案などについても試し、改善点についても話し合いをして、日々のケアに取り入れている。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を開催し、職員の知識向上に努めている。外部研修は、職員のレベルに合わせて参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	取手市地域密着型サービス連絡会を開催し、他のグループホームや行政との情報交換の場を作り、サービスの質の向上に努めている。また、各事業所で抱えている悩みなどについても相談し合い、勉強会を開催するなどして職員同士が同じ様な悩みを持っていることを知り、共感できる場を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と会う機会を設けている。本人や家族からこれまでの状況を聞き、本人の思いや要望を取り入れられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人と会う機会を設けた際には、ご家族にも同席してもらえる様になっている。その際、これまでの生活状況などを伺い、不安な思いや要望などを聞き取るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時に本人や家族より、相談内容を伺い、思いや状況などを確認し、グループホーム以外のサービスへ繋げることが出来るようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事はなるべく自力でおこなってもらえるよう支援している。本人を尊重し、理解しながらそれぞれが出来ることを活かせるような環境作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会を通して、ご家族とのコミュニケーションを図っている。また、毎月のお便りで利用者様の近況や日常生活の様子を伝え、共に本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないよう、ご家族の協力を得ながら外泊、外出の支援をして、大切な人たちとの関係が途切れないように努めている。また、入居の際には使い慣れた馴染みの家具などの品々を持ち込んでいる。	入居時に利用者や家族等から話を聞いたり、アセスメントシートから利用者のこれまでの生活歴のほか、馴染みの人や場所を把握したりしている。 職員は利用者の馴染みの人がいつでも気軽に来訪できるよう、面会時に再来訪を呼びかけている。 家族等の協力を得ながら、利用者が化粧品を購入するために以前から利用していた店や、近所の方の見舞いなどに行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り利用者様と共におやつ作りなどをして、互いに話しかけ協力しながら作業できるようにしている。常に目配り、気配りをして、トラブルを未然に防げるよう配慮し、日々を楽しく過ごせるよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても家族の気持ちに配慮しながら関係を継続できるようにし、相談事にも応じられるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中で、その人らしく暮らしていけるよう言葉や表情・行動などを見逃さないよう日常の観察を行っている。また、思いを伝えれない方には、本人の立場に立ち考えられるように努めている。	職員は利用者がその人らしい暮らしが続けられるように日常の係わりや会話を通して希望や意向を聴いたり、家族等から情報を得ている。新たに把握した内容や気付いたことは申し送りノートに記録し、全職員で共有している。意思表示が困難な利用者の場合は、日々の生活の中で表情や行動から思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人や家族の方々から生活歴や今までの暮らし方などについての必要な情報を伺い、日々の介護に取り入れられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りで日中・夜間帯の一人ひとりの状態を報告し、生活リズムや心身の状態を把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人ひとりに担当してもらいモニタリングを行っている。介護計画書を作成する際には役立てている。家族の意見や本人の状態が変化した際には、随時見直しを行っている。	介護計画は利用者や家族等の希望や意向を取り入れるとともに、職員の意見をまとめて計画作成担当者が作成し、6ヶ月毎に見直しているほか、心身の状態に変化が生じた場合はその都度見直し、利用者や家族等の確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の様子を個別に記入し、毎朝、朝・夕の申し送り報告して、職員が情報を共有している。この情報を基にケアカンファレンスを開催し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況変化やニーズに合わせて柔軟な支援と対応に取り組んでいる。また、同法人と合同で納涼祭を企画、開催するなどして交流を図っている。その他、自治会より夏祭りへ招待して頂き、地域行事などへ積極的に参加している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や清掃作業を通じて地域住民としての役割を持っている。また、地域住民の方々と合同でイベントを開催したり、近隣の小学生や中学生との交流を楽しんだりできるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医へ家族と共に受診されている方、職員が同行してかかりつけ医を受診する方、事業所の協力医療機関の往診を受けている方など、定期的な受診が受けられるようにしている。	週1回協力医療機関の医師による訪問診療が受診できる体制になっており、受診結果は家族等に報告している。 協力医療機関以外でも、利用者や家族等の希望にそったかかりつけ医への受診を支援している。 職員は適切な受診ができるよう、利用者の状態を書面で家族等に渡しているほか、家族等から受診結果の報告を受け、ケース記録に記載して全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時に日頃の状態を説明し、助言や指示を仰いでいる。緊急時にも電話で相談をするなどして助言や指示を仰げる体制をとり、支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の情報提供書を提出し、安心して治療に臨めるようにしている。出来るだけ早く退院できるよう面会時にも情報交換を行っている。職員へも経過報告をして情報を共有し、退院後の対応変更にもスムーズに対処できるよう意識付をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重要事項説明書により、重度化した際の対応方針を説明している。状態の変化などについては、随時家族へ報告し、事業所でできることを説明し、家族や主治医と相談して近隣の病院を受診したり、主治医が対応できるようにしている。また、重度化や看取りに関しての勉強会を開催して意識付をしている。	前回の外部評価の結果を踏まえ、看取りをしない方針であることを重要事項説明書に明記し、契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。 嚥下障害への対応などの職員研修はしているが、利用者が重度化した場合、どの段階になったらどの様に対応するかを示した具体的な対応マニュアルが作成されておらず、マニュアルに基づいた研修も実施していないため、職員は「経験がなく怖い」などの不安を抱えている。 利用者が重度化した場合は状態の変化を家族等に口頭で報告しているが、報告したことを記録に残すまでには至っていない。	重度化した場合の段階に応じた具体的な対応マニュアルを作成するとともに、重度化してきている利用者の状態を家族等に報告した場合は、報告したことを記録に残すことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を通して応急手当や初期対応の訓練を行い、緊急時のマニュアル整備を行っている。今後も定期的な勉強会を開催して、冷静な行動と対応が出来るような体制を整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を開催し、地域住民や近隣住民の方々の協力が頂けるようにしている。また、地域で毎年開催される自主防災訓練にも参加し、災害に備えている。自然災害に対する訓練を実施し、問題や改善点についてカンファレンスを開き、改善策について検討を行う。	洪水や竜巻、地震などの対応マニュアルを作成するとともに、年2回避難訓練を実施し、内1回は夜間を想定した避難訓練を近隣住民の参加を得ながら実施している。 避難訓練の実施記録を作成し、訓練で明らかになった課題を全職員で話し合い、共有して次回の訓練に活かしている。 災害時に備えておかゆや缶詰、飲料水を備蓄している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉遣いや声掛けをして対応している。排泄の声掛けなども本人の羞恥心へ配慮している。居室へ入室する際にも声を掛けたり、ノックをしてから入室するように注意している。個人情報の取り扱いについても十分注意を払っている。	職員は利用者に対する呼び方や言葉遣いに気を配り、特にトイレ誘導の際には利用者の耳元で行うなど、利用者の尊厳を大切にしている。 ケース記録を含め、個人情報に関する書類は、事務所の鍵のかかる書棚に保管し、情報漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の希望や思いを察し自己決定が出来るような声掛けや環境作りなど、一人ひとりの能力に合わせた声掛けを行い、自分の意思が反映させられるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの生活リズムに配慮して起床・就寝・食事など本人のペースに合わせて対応するよう心がけ、日々の生活を楽しく過ごすことが出来るよう声掛けや場面を工夫し、自分らしさを引き出せるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的にカットボランティアの方に来所して頂き散髪をして頂いている。身支度については、個人の好みを尊重しながら職員と共に服を選ぶなど日々支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理のない程度でテーブル拭きや下膳などを手伝って頂き、自分のペースで食事が摂れるような雰囲気作りに努めている。また、おやつ作りを行う際にも個々ができることで活躍し、楽しんでいただけるよう支援している。	車で5分の場所にある関連の通所介護事業所から、調理された食事が三食届けられている。利用者は職員の支援を得ながら配膳や後片付け、テーブル拭きなどの役割を担っている。誕生会では利用者と職員と一緒に手作りのケーキを作ったり、ファミリーレストランで外食をするなど、食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスのとれたメニューを提供し、一人ひとりの状態に合わせて食事の形態を換えて提供している。食事の摂取量・水分摂取量は個別に記録をして、夜間帯も状態に合わせて水分補給を行うなどの支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、口腔内の清潔を維持できるよう声掛け・見守り、介助など、個別に合わせた支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、個々の排泄パターンを把握しながら声掛けやトイレ誘導を行っている。失敗してしまうような事があってもさりげなく対応して、不快感を取り除いている。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らって声かけ誘導をし、トイレで排泄ができるように支援している。入居前からリハビリパンツを使用していた利用者が、職員の適切なトイレ誘導により失禁がなくなり、布パンツ使用に改善したため、皮膚の変調予防や経済的負担の軽減につながっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様個々の排泄の有無を毎日確認している。便秘傾向がみられる際には、乳製品などを取り入れたり、その方の身体状況に応じた運動を取り入れて自然な排泄が出来るよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望を基にた表を作成して入浴をしているが、当日の体調や気分も考慮している。安全性を確保するため場合によっては二人介助で行うこともある。季節感を味わっていただくために菖蒲湯や柚子湯などを楽しんでもらうよう工夫している。	入浴は利用者の希望にそって柔軟に対応し、利用者の気分のいい時に入ってもらっている。入浴を拒む利用者の場合は職員を替えたり、時間をずらしたりして再度誘導しているほか、体調不良の時は清拭で対応している。5月は菖蒲湯、12月は柚子湯を取り入れ、季節を感じながら入浴ができるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう配慮しつつ、居室やソファなどで休息できるようにしている。また、一人で過ごせる時間も大切に、室温などにも気を配り快適に過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に処方箋をファイルに綴じていつでも確認が出来るようにしている。薬の内容に変更があった際には、申し送りノートに記載したり、朝・夕の申し送りで伝えるようにしている。また、誤薬や飲み忘れが無いよう職員が名前を確認して手渡して内服を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の能力に応じて掃除や洗濯ものたたみなど、各自に合った役割を持っていただいている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段は 行けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の人々 と協力しながら出かけられるよう に支援している	利用者様の希望や身体状況に合 わせてさんぽをするなど日常的 な外出支援を行っている。また、 季節行事を大切に、地域 行事へも積極的に参加できるよ う支援している。その他、外気 浴なども多く実施し、外の空気 に触れる機会を多く持つように している。	天気の良い日には事業所周辺を散歩したり、 暖かい日は駐車場で外気浴をしたりして、五感 を刺激しながら四季の移り変わりを楽しめるよ う支援している。 事業所の車両を利用して藤の花見や公園、小 学校の「ありがとう集会」などに出かけ、気分 転換ができるよう支援している。 家族等の協力を得ながら、ショッピングや食 事会に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人ひ とりの希望や力に応じて、お金 所持したり使えるように支援して いる	お小遣いを預かり、施設の金庫 で保管している。買い物の際に は職員が付き添い、状況に合わ せてお金を所有して必要な物 を購入できるよう支援している。 また、家族へは毎月、請求書と 共に収支決算を報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電 話をしたり、手紙のやり取りがで きるように支援をしている	家族や知人などとのつながりが 保てるよう電話や手紙など、本 人の希望に添えるよう支援して いる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居 間、台所、食堂、浴室、トイレ 等）が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激（音、光、 色、広さ、温度など）がないよ うに配慮し、生活感や季節感を採 り入れて、居心地よく過ごせるよ うな工夫をしている	居室は、利用者の使い慣れた家 具などを設置するようにして る。共有空間は、居心地良く生 活が出来るよう温度管理や環境 整備に配慮している。玄関先 には季節の花を植えたり、メダカ などの生き物を飼うなどして いる。	居間兼食堂からウッドデッキに出ることが でき、ウッドデッキからは一面に広がる田んぼが 眺められ、開放感のある居心地のよい空間と なっている。 居間兼食堂にフェルト製の手作りカレンダー や観葉植物を飾り、ゆったりと寛げるような落 ち着いた雰囲気づくりをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の状態や状況に合わせて、ホール内のレイアウトを換えるなどして過ごしやすい空間を作っている。また、テラスにはベンチとテーブルが設置してあるため、気分転換をしたり、お茶を飲んだりして過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分らしく生活して行けるように永年愛用してきた物や家族との思いでの物を持ち込んで居心地の良い空間作りを行っている。	居室にはエアコンやタンス、カーテン、ベッドが備え付けられている。 18部屋ある居室の内、5部屋にはトイレと洗面台が備え付けられており、利用者の状態に合わせて自立した暮らしができるよう配慮している。 利用者は居室にテレビや椅子などの使い慣れた物品や、位牌や仏壇などの大切な物品を持ち込んだり、家族の写真を飾ったりしており、居心地よく過ごせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない作りとなっている。各居室には表札を付けて、自分の居室が分かるようにしている。本人の状態に合わせてベッドやタンスなどの配置を換えるなどなどして、安全に生活が送れるような環境作りをしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームたんぽぽ

作成日 平成26年4月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	福祉サービス向上のため、全ての運営推進会議に参加される事が望まれる市職員もしくは地域包括支援センター職員に、会議に参加してもらうにはどうしたらいいか、市と十分に話し合うことを期待する。	運営推進会議へ市職員が開催毎の参加実現。	運営推進会議の開催予定表を作成するなどの工夫をし、事前に年間の開催予定日を知らせる。また、開催日が近くなったら担当職員へ連絡をするなどして、参加の有無を確認し、不参加とならない様、お願いをする。	1ヶ月
2	6	身体拘束解除に向けて話し合った内容を記録に残すことを期待する。	全職員が拘束解除に向け統一した考えとなる。	定期的実施している身体拘束のカンファレンスで身体拘束解除についても話し合い、解除することを検討し、記録へしっかりと残す。	3ヵ月
3	33	重度化した場合の段階に応じた具体的な対応マニュアルを作成すると共に、重度化してきている利用者様の状態を家族等に報告した場合は、報告したことを記録に残すことを期待する。	全職員が統一した理解のもとで介護が行えるようになる。	重度化に関するマニュアルを作成し、誰もが閲覧できるようにして状態が把握できるようにする。また、家族への報告内容を記録する用紙を作成する。	12ヵ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。